

## 「脇本小学校の山田楽伝承活動の取組」

### 1 学校名

阿久根市立脇本小学校

### 2 学年・人数

5・6年生（計64人）

### 3 日時・場所

#### (1) 練習等の日時・場所

令和元年7月13日（土） 山田楽伝承式（6年生から5年生へ）

令和元年8月20日（火）～27日（火）山田楽練習（土日を除く7日間）

#### (2) 発表の日時・場所

令和元年5月4日（土）グリーンフェス（山田楽6年生出演）

令和元年9月27日（金）「山田楽」宮崎神社奉納

令和元年10月6日（日）小学校運動会（本校運動場）

令和元年11月23日（土）JAいずみ農業祭（JAいずみ本所）

令和元年12月14日（土）障害者支援施設「あいわの里」支援センター訪問

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

#### (1) 名称

山田楽（やまだがく）

#### (2) 由来

今から約400年前の関ヶ原の戦いに由来し，名地頭と謳われた山田昌巖氏が考案したと言われる鉦と大小の太鼓からなる勇壮華麗な踊りである。山田昌巖氏の姓をとって「山田楽」と名付けられる。当時は一部の集落の踊りであったが，地区青年団により踊りが伝承されたことで，今に起こる踊りとなっている。

#### (3) 構成等

山田楽の楽器は，①鑢鉦（めはち），②すり鐘，③大太鼓，④小太鼓の4種類で構成されている。衣装は，①鑢鉦（めはち）は，黒がすり・白半ズボン・紅白たすきを身に付け，紫の頭巾を被る。手には黒の手甲，足には脚絆を付けわらじを履く。②すり鐘は，黒の長がすりに印籠を身に付け，飾り笠を被る。鑢鉦と同様にわらじを履く。③大太鼓は，白地のゆかた・白半ズボン・たすきを身に付ける。飾り笠・黒の手甲と脚絆・わらじは他と同様である。④小太鼓は，はんてん・白半ズボンを身に付け，頭に手ぬぐいを被る。手甲と脚絆は水色で，わらじを履き，飾りの付いた背子を背負う。また，芸態は，戦勝を神社にて祈願する様子「祈願」，戦いに出る合図を表した様子「出陣」など，全部で8つの場面に分けて表現している。

### 5 保存会や地域との連携の具体

脇本小学校では，次第に衰退していくこの踊りを何とか継承したいという校区民の願いに応えるため，1984（昭和59）年以來，小学校5年生が伝承し，今日に至っている。その経緯から，保存会事務局は脇本小学校内にある。また，本校の全保護者が賛助会員となり，PTA会員の会費（年間300円）により保存会の運営を行っている。

指導者は，地域の有志者2人が中心となり，必要に応じて学校職員も指導する。練習の補助や市内外の祭りの送迎等については保存会育成会の保護者が全面的に支援している。また，地域の行事（グリーンフェスや産業祭等）に参加したり，地域の障害者支援施設を訪問したりするなど，地域の活性化にも貢献

している。平成29年2月には、第50回全国子ども会育成中央会議・研究大会（久留米市開催）に県代表として出場し、踊りを披露した。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- (1) 学校の教育課程に地域の伝統文化継承を学ぶ学習を位置付け、郷土を愛し、郷土を大切にすることを培うように工夫している。
- (2) 薩摩の「郷中教育」の精神に習い、児童相互に教え合う形式をとることで6年生（先輩）から5年生（後輩）へ伝承されるよう工夫している。
- (3) 活動を始めて36年の歴史があり、児童や地域住民の愛着も深く、子どもたちが地域で活躍する場があることで、自己肯定感も育っている。
- (4) 小学校に保存会事務局を設置し、全保護者を賛助会員とすることで、保護者の協力が得られ、活動への支援体制が充実している。また、かつて踊った経験のある保護者も増え、活動を支援する輪も広がりつつある。
- (5) 平成28年度から阿久根市立折多小学校の6年生も夏季休業中の練習に3日間参加している。両校の進学先である三笠中学校でも山田楽が継承されていることから、折多小の6年生にも進学前に少しでも山田楽に慣れ親しんでもらおうと、合同で練習し、両校の交流を深める機会にもなっている。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【夏休みの練習風景】



【運動会での発表】

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 【5年生児童】

- ・ 私は、二人の師匠から山田楽の由来などを教えてもらったことが心に残っています。なぜなら山田楽の由来を教わったことで山田楽をもっともっと大切にして地域に広げて行きたいという気持ちになったからです。そして、山田楽を通してみんなの心が一つになれたことがよかったです。仲間と一緒にお互い教え合ったりして山田楽を作り上げていけたことが私の自信になりました。
- ・ 私は山田楽を通じて、伝統を引き継ぐという責任感を学びました。誰かが引き継ぐだろうと思っただけでは、伝統が途切れてしまいます。一人一人が山田楽を大切に思い、引き継いでいこうとする気持ちを持つことが大切だと思いました。練習はきつかったけど、練習を通じて仲間との絆が深まったことがよかったです。